

雇用型経営を核とした宗像園芸産地の維持・拡大～雇用導入による経営安定対策～

【平成26年度福岡県普及現地事例情報（北筑前普及指導センター）】

[抄録]

宗像地域の園芸農業は、生産者の高齢化や農産物直売所への出荷量増大により、JA共販部会員や共販出荷量が減少するなど、産地の弱体化が懸念されている。

また、家族労働力を主体とする現状の経営では、収益面・労力面において限界状態にあり、農家の経営強化が大きな課題である。そこで新たに発足した雇用システムを活用して経営の維持・拡大に取り組んだ。

[本文]

詳細は添付ファイルを参照ください

雇用型経営を核とした宗像園芸産地の維持・拡大

～ 雇用導入による経営安定対策 ～

1 課題化の背景

宗像地域の園芸農業は、生産者の高齢化や農産物直売所への出荷量増大により、JA共販部会員や共販出荷量が減少するなど、産地の弱体化が懸念されている。

また、家族労働力を主体とする現状の経営では、収益面・労力面において限界状態にあり、農家の経営強化が大きな課題である。そこで新たに発足した雇用システムを活用して経営の維持・拡大に取り組んだ。

2 活動内容

(1) 雇用及びパッケージングを活用した経営の維持・拡大

○ 雇用システムを活用した経営の推進のため、各品目の部会会議等において雇用ヘルパーの利用推進を啓発。

○ 雇用ヘルパー利用者数の増加に対応するため、新たな雇用ヘルパー確保のための募集を行うとともに、ヘルパーのスキル向上のための技術研修を開催。



【イコでの雇用ヘルパーに対する出荷規格の研修】



【イコでの雇用ヘルパーに対するパック詰め研修】



【イコでの雇用ヘルパーに対する収穫の研修】



- （一財）むなかた地域農業活性化機構、宗像市、福津市、JAむなかた、同関係部会部会長、両市の認定農業者協議会会長、普及指導センターで構成する雇用調整システム実証会議に参画し、安定したシステム運営に向けた活動を実施

(2) JA部会を核とした園芸品目のパッケージング体制整備支援

- ブロッコリーにおいて、パッケージングセンターの安定した取組に向けての事前説明会議に参画し、具体的な取組について協議を実施

3 主な成果

(1) 雇用及びパッケージングを活用した経営の維持・拡大

- 雇用ヘルパー活用農家数が平成26年11月末現在で延べ80戸、雇用ヘルパー紹介者数が延べ196名となった。
- 雇用ヘルパーに対する農家の認知度が高まり、今後の需要増が見込まれるようになった。
- イチゴでの雇用ヘルパー研修を収穫及びパッケージング作業において実施し、スキル向上ヘルパーを育成した。



【福津市の雇用ヘルパーを活用したキャベツ収穫】



【宗像市の雇用ヘルパーを活用したイチゴのパック詰め】

(2) JA部会を核とした園芸品目のパッケージング体制整備支援

ブロッコリーにおいて、平成25年度に引き続き本年度も試行としてパッケージングセンターを取組中。(12月1日～2月末まで)



【ブロッコリーパッケージングセンター試行】

